

2021 年度実施概要

学校名

岩手県洋野町立林郷小学校

採択活動名

つながる自分 つなげる自分 ～ひろのの山・川・海・ひと～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 洋野の海を知ろう	3～6年	総合
2. 有家川の自然を調べよう	3, 4	総合
3. 有家川と海をつなげよう	5, 6	総合

取り組みの概要

まず、海洋学習の導入として、大野の大地を知る学習を行った。講師の方に依頼して、バスで移動しながら景観を見たり地層を触ったりする体験学習を行った。洋野町の大野地区は、海成段丘で形成されている大地であり、昔、大野の大地は海の底であったこと、大野の大地は海とつながっていること、海からのぼるやませが大野の産業を支えていることなどを学び、大野を知る機会とすることができた。

また、今年度から全校で海岸に出かけて、砂遊びや生き物探し、磯遊びをとおして、海は楽しい所という思い出から海に関心をもたせる取り組みを始めた。

次に学校周辺の探検をして、近くには大野の山と海を結ぶ有家川が流れていること、川を利用した農業や酪農が盛んな地域でもあることを目で確かめた。豊かな自然が保たれ、自然を生かした産業が続くためには、山、川、海そして人々との生活を結びつけて考えさせることが大切であると伝えさせ、学習課題づくりを行った。

大テーマ「つながる自分 つなげる自分 ～ひろのの山・川・海・ひと～」と設定して、3年生から6年生までが、総合的な学習の時間をつかって系統性のある学びを展開できるようにした。

山と海を結びつける川に着目し、学校の近くの川を調査したり、川と海の接する付近の見学や体験をしたりして学習を進めた。さらに学んだことから自分の生活を見直すきっかけにし、今後の生活に生かしていくこともねらいとした。

【3～6年生】

★洋野の海を知ろう（ヒーローの旅）

海と高原のまち・ひろの体験交流推進協議会のご協力で、3年生以上が「ヒーローの旅」という海洋体



験学習を行った。本来なら漁家に民泊して交流を深める体験も予定していたが、コロナ禍での感染症予防のために、日帰りで2日間、海岸付近に出かけて学習を深めることにした。

普段見ることのない、増殖溝での見学では、ウニを質良く育てるための工夫を学び、北三陸ファクトリー工場見学では、ウニの殻向き体験を行い、海産物に直接触れる体験学習を行った。児童は海の恵みの素晴らしさを実感し、感じたことを新聞にまとめた。

2日目は種市高校を訪問し、種市の伝統文化である南部潜りについて学んだ。震災学習として、津波の仕組みや被害の大きさや怖さについて学習し、新聞にまとめた。

シーサイドアクセサリー作りでは、砂浜に打ち上げられたシーグラスを使った作品作りをして、砂浜の楽しさを味わうとともに、思い出を作ることができた。



【3、4年生】

★有家川の自然を調べよう

学校の近くを流れる有家川の様子を観察し、魚や水の中の生物を観察した。生き物が住めるきれいな水であることに気づき、有家川下流にある、さけ・ます孵化場の見学をした。近年鮭が川に戻ってくる数が減っていることを知り、海の資源に限りがあることに驚いていた。鮭の人工授精の様子や、受精卵の成長の様子を観察し、生命の尊さや海の資源を守るための人間の努力を感じるとともに、鮭が帰ってきてくれないことを悔しがり、「もっと鮭が戻ってきてほしい」という願いでまとめた児童もいた。



【5、6年生】

★有家川と海をつなげよう

大野の山と種市の海を線をつないでいる川に着目し、有家川の水生物調査を行った。分類表を見ながら水網ですくった生物の名前や捕まえた数を記録し、表にまとめた。その結果から有家川の水はきれいな水であることを確かめることができた。川は海につながることを考えれば、川の水は海の自然を豊かにすることにつながっていることを社会の学習の既習事項と関連させて、気づくことができた。



しかし、川の付近の環境調査をすると、ペットボトルや菓子の袋などが見つかり、これが増水により海に届いていくのではないかという疑問をもった児童がいた。実際に有家川の河口付近の海岸清掃をすると、予想よりも多い量のプラスチックゴミがあり、児童は驚いていた。

児童は、プラスチックごみ（海洋ゴミ）の海の生き物に与える影響を調べた。川から流れ出る漂着ゴミの多いことや、海洋ゴミが生き物に与える影響が大きいことに驚いていた。

海洋ゴミの海の生き物に与える影響の大きさから、陸の自然保護も大切であると気づいた。海のない大野地区でも海を守る活動ができる事を知り、山と海をつなげたり、自分と海をつなげたりして考えたことを、海洋子どもサミットで発表した。

